

No.	意見（原文）	市の考え方
1	篠岡地区の小学校5校を段階的に、児童数に合わせて再編し、1校にする（案）ですが、現状の少子化と鉄筋コンクリート校舎の耐用年数から考えて、来年度にも、大城小学校1校にするのが、予算的には、ベストだが、篠岡学区は、他の学区と異なり、中学校区ですら、非常に広大な地区で、中学校を光が丘中学校1校にするのも、毎日の雨の日を含めた通学に、困難と児童生徒に多大な負担を掛け、交通安全確保上も、山間部は、道路に高低差が酷く、自転車での上りですら、大人でも難しい。 特に、小学生低学年、中学年は、タブレット端末や楽器等、クラブ活動用体育器具を持参し、夏場は、水筒持参での通学は、現在の篠岡小学校区のお子さんでも、学区が細長いこと、通学路が限られていること、橋を渡らざるを得ないことなどで、学区の端部に居住の児童は、今でも片道1時間以上かけて通学している実態があり、市街化区域の平地の学区とは、通学の負担が全く異なる。田舎の自治体のように、学校再編と共に、スクールバス通学導入するレベルの学区の大きさと道路の高低差とダンプカー等大型車両の多さと、県道桃花台線等、池之内交差点の朝の登校時の渋滞実態と考えると、再編は難しい学区だと思われます。再編するのであれば、桃花台ニュータウンに偏った小学校区から、篠岡地区全体を均等に分割した小学校区への再編も同時に必要である。調整区域であっても、農家、サービス業、公共施設で働く市民の子弟は、ゼロではなく、その児童に、生まれた場所の責任を負わせるのは、酷であり、差別になり、憲法の教育の機会均等に反する自治体判断となります。子供の義務教育を受ける権利を簡単に自治体が奪ってはいけません。せめて、小学校低学年、中学年は、2km程度での通学エリアになるように再編してほしい。それが出来なければ、通学スクールバスの無料運行をすべきで、愛知県の桃花台ニュータウン開発の失敗によるしわ寄せを、いつまでも、児童生徒に負わしてはいけません。昔の小学校は、こんなに、ニュータウン地区に集中して開校していませんでした。愛知県のニュータウン開発計画により、ニュータウン地区に、小中学校が無理やり移転させられたのです。大草、四季の森には、新インターチェンジも出来、調整区域であっても、居住住宅の配置が流動的であります。今の児童の居住実態だけで、小学校の設置場所を決定することは、愛知県の桃花台ニュータウン構想の失敗を真似るだけです。 もっと、未来と地形、道路事情、交通安全を考えた再編案を示すべきで、1案だけでなく、数案を市民に提示し、時代とともに、その案を、小牧市で、修正可能な都市計画案を愛知県に示すべきで、愛知県の開発失敗が原因ですから、固定概念での都市計画は辞めてください。また、道路開発は、隣接の犬山市、春日井市とよく協議して行っていたき、近隣広域開発プランを同時に提示してください。近年の犬山市の市道拡幅工事と小牧市の市道とは、まったく連携していない問題を直視してください。 教育長も、クラス替え問題やいじめ問題以前に通学不可能な学区編成は、辞めてもらいたいです。1学級1クラス問題より交通事故で、毎年児童が亡くなる問題の方が重いと思われます。	■学校再編のイメージについて P56上段に記載のとおり、本計画に記載された地区別の学校再編のイメージは、児童生徒数の推計及び適正規模・適正配置の基準に基づいた必要学校数のイメージであり、具体的な再編案は、今後、地域の実情に合わせて地域別の再編計画を策定していく中で検討します。 なお、篠岡地区については、児童生徒数の減少が著しいため、まずは現状でも適正規模を大きく下回っている学校についての再編に取り組み、その後は、その再編の状況や児童生徒数の推移等により、さらなる再編を検討するなど、段階的に再編に取り組む必要があると考えています。 ■通学（適正配置）について 通学区域の変更や学校再編に伴い、通学距離や通学路の変更等が生じることが想定されます。P53中段に記載のとおり、子どもたちが安心して学校に通うことができるよう、通学距離や学年等を考慮し、必要に応じて自転車による通学や公共交通機関の利用、スクールバスの導入等を検討します。

No.	意見（原文）	市の考え方
2	小中一貫・クラス数が少なくなることのデメリットとして競争意識の低下が考えられるかと思います。私は他県の小中一貫校（1学年2クラス）の出身ですが、期末テスト等の順位は大体いつも上位下位のメンバーは同じで、下位の子たちは「みんな頭いいから自分は頑張っても…」という感じで競争意識が消失していました。 この点に関しての対策としては愛知県全県模試のようなものを個人申し込みではなく中学単位で実施すれば自分自身の位置づけなどを把握できるのではないかと思います。 また、小規模化のデメリットとして資料にあげられている「PTA活動における保護者一人当たりの負担が大きくなる」との懸念点についての対策としては、 ①デジタル化できるところはすべてデジタル化 ②今ある業務の必要性（なぜやっているのか）を保護者にすべて明確に説明できるかの2つが重要なのではないかと思います。 まだ子供が小さいためPTA活動がどのようなものか知らないのですが、コロナ禍でステイホームになった際に「PTAの集まりが減って楽になった」「今まで伝統としてやっていただけて別になくても問題のない業務だった」などの声が全国的にみられました。例えば学校に集まる会議はすべてリモートでやるだけでも保護者の負担は減ります。 またその他の業務についても保護者にその業務の必要性が明確に説明できないようなものであればそれは削減していつでもよい業務ではないかと思います。今までやってきたPTAの業務が必要だと思うかそうでないかを保護者に匿名アンケートを取って実状を把握するのもいいかと思います。 今の時代共働きの家庭が多いため、家庭に負担にならない程度までPTAの業務量を減らすことが大事だと思います。 通学に関する懸念点として長距離通学者が心配です。先日は下校中の小学生が顔を真っ赤にして建物の陰で休憩を取りつつ下校する様子がみられました。夕方でも気温が高いですしこの酷暑ではそれだけで体力が消耗してしまうと思います。少しでも体への負担を減らすために、教材を学校に置きっぱなしにするなどランドセルが重くならないような工夫を学校全体で促進してもいいのかと思いました（すでに対策しているかもしれませんが） 校舎の老朽化も気になっています。予算の兼ね合いなどで改修に時間がかかることは理解していますが、改修までの間に大規模な災害があった場合現校舎の安全性は保たれるのか、避難場所として使っても問題のない耐久性があるのかなど公表していただけると安心です。	■学校規模の小規模化について P41～P43に記載のとおり、学校規模が小規模化すると、「一人一人の児童生徒に目が届きやすく、きめ細かな指導ができる」などの利点もありますが、一方で「多様な他者との触れ合いが限定的となる」「クラス替えができないため、人間関係が固定化される」「様々な考えに触れて、互いに切磋琢磨することができにくい」「部活動や委員会等の子どもたちが希望する活躍の場の確保ができなくなる」など、多くの課題も指摘されています。これらの課題は、少人数の学校に通う全ての児童生徒に当てはまるということはありませんが、市としても大きな課題として認識しています。 学校教育では、子どもたちが多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが重要であると考えており、学校規模が小規模化することの様々なデメリットを解消するために、学校規模を適正規模にできるだけ近づけていくことが必要であると考えています。 ■PTA活動について PTA活動については、自主運営であり、各学校により活動に対する考え方が様々ですが、各PTAにおいては、これまでも活動しやすいように活動内容の見直しはされてきていると認識しています。そうした中においても、現状、P42下段に記載のとおり、PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすいことが、学校の小規模化のデメリットとして指摘されているものとあります。 ■通学に関する懸念点について 現在も学校用具の持ち帰りによる子どもたちの身体の過重を軽減するために、宿題の有無や時間割、教科の学習内容によって各学校で計画的に持ち帰りや持参をするように指導しています。 学校再編に伴う通学に対する懸念については、「No.1」の回答のとおりです。 ■学校施設の老朽化について 本市では平成19年度までに校舎や体育館などの耐震診断を実施し、耐震性が不足していると判定された建物の耐震改修や改築を実施してきたところです。 各小中学校の耐震診断結果は、市ホームページにて公表しております。 [小牧市ホームページ] ホーム＞組織・機構＞教育委員会事務局＞教育総務課＞施設係＞教育＞お知らせ＞小中学校の耐震診断結果について

No.	意見（原文）	市の考え方
3	私は、現在大城小学校の通学路防犯ボランティアパトロールをしております。今年で7年目になりますが、今年も4月に多くの1年生が入学し元気に通学するのを老体に鞭を打ち、微力ながらサポートさせていただき子供たちから元気をもらっております。 新たな学校づくり推進計画を見させていただき、学校施設の経年に伴う諸問題、少子化に伴う再編についての方向性については概ね賛意を表します。 他地区のことについてはわかりませんし、自分が現在携わらせていただいているのは大城小学校の大草地区の一部ではありますが、感じている範囲で意見を述べさせていただきます。 適正配置の基本的な考え方ですが、文部科学省の基準と同じかと思いますが、通学距離の許容範囲概ね4キロ以内、通学時間の許容範囲概ね1時間以内となっております。現在私の関わっています通学団は、令和6年7月現在で11人です。内訳は6年1人、5年3人、4年2人、3年1人、1年4人です。通学距離はおよそ1キロです。集合場所まで約5分、集合場所から学校まで約10分です。 3年生以上は1部を除き慣れているので普通に歩いてくれますが、1年生はやはりまだ大変です。途中でおなかが痛くなったと言って母親に迎えに来て送ってもらう子や、カバンが重くて行きたくないという子など様々です。他の通学団は、遠いところだと45分から50分位かかっているようです。学校へ到着時点で、暑さと距離で疲れているような子も時々見受けます。一番の問題は、大草地区から桃花台へ行くのは急な坂を上っていく必要があるということです。桃花台の学校へ桃花台以外の地区から行くには、どこの地域もすべて急坂を上らなくてはなりません。平坦な路と勾配の大きい道路では体への負担と要する時間が違うはずですので、その点も考慮する必要があると思います。 参考までに、東京都足立区では、おおむね30分以内、おおむね1200メートル以内が望ましいとされています。 https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/34902/29gaidorain_gaiyouban.pdf 以上のことも検討事項に加えていただき、未来に向けて小牧市のより良い学校づくりをよろしくお願いいたします。	■通学（適正配置）について 「No.1」の回答のとおりです。
4	篠岡地区の小中学校をそれぞれ一校に統廃合する事は反対です。桃花台ニュータウンができる前はそれぞれ一校しかなく、下末、大山地区の小学生はバスで通っていたと思います。子どもの人数が少なくても学区はとても広くなるので通学に時間もかかり心配です。せめて二校ずつにして欲しいと思います。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。

No.	意見（原文）	市の考え方
5	小中一貫教育導入検討の記述に目を見張りました。人口減少社会対処のための選択肢としてではなく、未来を見据えた教育改革プランとして、小中一貫教育の進展を期待します。現在の小学校と中学校は、制度ができてから既に長い年月を経ているわけであり、時代遅れになっているのかもしれませんが。年長者が幼年者を援け思いやるスキルや心を育て、障害児や外国人はじめ諸事情を抱える人たちとのインクルーシブ教育を実現するためにも、適正な規模かつ適切な期間を継続して学べる小中一貫教育が、より理想に近い学校の形態とも思えます。 瀬戸市のにじの丘学園はじめ、全国には既に多くの小中一貫教育の実践がなされていると聞きます。それらの情報を集め、吟味して、新しい学校の青写真を作ってくださいことを期待します。 核家族化が進み、両親ともに勤労者という世帯が一般的というのが今日の社会です。学童保育的な機能、地域社会の補完という機能も併せ持つ学校の創生の検討もお願いしたいと思います。 学校の適正配置を遂行したら、通学区域が広がり、必ず通学距離、通学時間の問題が出てくると思います。計画案に許容範囲や対策等の考え方は示されていますが、踏み込んだ論議を望みます。小中一貫教育が開始された場合、小学校中学校どちらの基準を適用するかなど、解決しなければならない課題はいくつもあると思います。 戦前は今よりずっと遠い距離を歩いて学校に通ったものだ、という話をよく聞きます。でも、昔の田園環境の中を歩くのと、今の車が飛び交う中を重い教材を背負って歩くのでは、安全やストレス等の点でも大きな違いがあると思います。障害等、通学を困難にする諸事情を抱える子もいるはずです。個別対処も含めた配慮策を検討、整備することは大事なことと考えます。 例えば豊明市や瀬戸市のように巡回バスや路線バスの活用等をはじめ、いろいろなアイデアがあると思います。全国の長距離通学対処策の情報を集めることが肝要と思います。 また市のコンパクトシティ構築の構想と相まって、人々の居住地区の有機的な誘導も有効だと思います。それらをセットにした、まちづくりの総合的なプランの中で推進していってもらえればと思います。	■小中一貫教育について P39～P40、P54中段に記載のとおり、子どもたちにより良い環境でより質の高い学校教育を提供し、義務教育9年間の学びと育ちをさらに繋いでいくため、小中一貫教育の導入を検討していきます。 ■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。
6	今年子どもが桃ヶ丘小学校の1年生になりました。今年から1年生は1クラスという事でクラス替えもなくこのメンバーで卒業まで過ごす可能性が高いんだなと入学式のときから寂しく思いました。少ないからこそ、よりチームワークや団結力が高まるというのもありそうですが、運動会や野外学習や修学旅行のときはやはり人数が多い方がより良い思い出になりそうとも思ってしまう。卒業アルバムも寂しいものになってしまうのではないかと思います。 令和15年ではなくもっと早くにこちらの計画を実行していただけたらと思います。もしくは、運動会は無理だとして1学年のみの行事(野外学習、修学旅行など)は他の学校と合同(そのために前もって他学校と交流をしておく)というのも難しいでしょうか。一市民、一児童の親として意見させていただきました。	■早急に取り組む必要のある学校 P58に記載のとおり、巾下地区、篠岡地区及び北里地区については、児童生徒数の減少や施設の老朽化の課題が大きく、早急に学校再編に取り組む必要があると認識しており、速やかに保護者、教員、地域の方々等を交えた学校再編の協議を開始する予定です。 また、学校再編についての基本的な考えは、「No. 1」の回答のとおりです。 ■学校間交流について 現在、中学校の部活動において複数校による合同部活動などの実施により子どもたちの活動の場の確保に努めております。また、今後、学校再編を進めていく中においては、事前の学校間の交流など、再編に伴う児童生徒の負担が少なくなるような取組も検討していく必要があると考えています。
7	光ヶ丘中学校卒業生です。中2の時に転校してきました。桃花台にある中学校は篠岡中学校から分離された経緯もあるので段階的に篠岡中学校に統合した方がいいです。篠岡中学校の校舎の建て替えもあるので桃陵中、光ヶ丘中のどちらかの校舎を仮で使いましょう。	■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。

No.	意見（原文）	市の考え方
8	子供数が減少しているとの事ですが明石市のように子供の数が増えている自治体があります 何故明石市は増えているのに小牧市は減っているのかの検証はされたのでしょうか？ 子供の数が減っていく自治体と増やすことができる自治体の未来を想像していただきたいです そして減少した数を補填するように外国人を積極的に入れようとするのはあまりに短絡過ぎると感じています 現在PTAでは外国人は日本語が喋れない人が多いため選出の対象外となり日本人の保護者のみに対応にあたっております 同じように子供が通っているのに負担は日本人のみでしかも無償ボランティア 何故この様な「理不尽な扱い」を日本人が受けるのでしょうか 日本人が必死で働いて納めた税金も外国人に垂れ流すように使われているように感じます 子供を増やすには周りの自治体より小牧市を選んでもらう必要があります そのために給食を無農薬で地産地消の食材を使用したりパンや乳製品の提供を止め質の良い和食に変える等が有効だと思います 隣の春日井市では給食が冷たく美味しくないと残す子供が多いそうで保護者の方も給食に悩んでいます 最近すぐにキレる、相手の立場になって考えられない子供たちが増えています まずは「食育」給食から変えていただきたいです 学校を減らし結果通学時間が長くなるような自治体を積極的に選ぶ親はいません あと学校でのタブレットの使用について 中学入学時に保護者向けの「大人のスマホ教室」がありスマホやタブレットの危険性を知り大変有意義な講座でした それにもかかわらず子供にはタブレットを積極的に使わせるのは何故でしょうか？ 視力も姿勢も悪くなり、全ての答えをネット上に求め自分で考える力が育たない子が増えるのではないのでしょうか アメリカの教育熱心な富裕層エリアにある学校ではタブレットは禁止と聞きました タブレットに税金を使うのではなく給食に使っていただきたいと切に願っています タブレットの使用に反対している保護者は想像以上に多いです 使用頻度を下げることによって小牧市を選ぶ親も増える事も考えられます 「誰もが輝ける～」と聞き心地は良いが中身が不鮮明なキャッチフレーズより具体的に「給食の質向上」「タブレットより手書きの教育」等本気の自治体を保護者は選ぶはずです 幸い子供を増やすことに成功している自治体があるので参考にできます 一から考える必要が無く周辺の自治体がまだ取り組んでいない今「小牧市」にとってまたとないチャンスだと思います	■人口増加対策と学校再編について 本市におきましても、これまで子どもや子育てに関する施策を重点的、総合的に推進してきましたが、将来的に、人口減少、児童生徒数の減少は、さらに進むと推計しており、学校再編が必要であると考えています。 また、学校再編により、充実した学校施設で特色ある教育活動を行い、魅力的な教育環境の学校を地域に作ることで、若い世代の家族を呼び込むための強みになるようにしたいと考えています。 【計画案の修正】P54④「地域とともにある学校づくり」において、若い世代や子育て世代にとって魅力のある学校づくりを行う旨の説明を本文に加えます。 ■食育（学校給食）について 学校再編の有無に関わらず、成長期にある子どもたちの心身の健全な育成のため、栄養バランスのよい給食を提供することがとても重要であると考えています。 このため、PTA代表や学校長などで組織する学校給食献立作成委員会で献立の内容について協議しています。 また、学校においては地産地消などをテーマとした食に関する指導、いわゆる食育として教育活動の中で行っているところです。 ■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■タブレットについて P34に記載のとおり、情報通信技術が急速に発展し、未来を予測することが困難な社会を生きていく児童生徒が、必要に応じて自らを成長させ、自らの力で時代を切り拓く確かな力を身につけられるよう、授業や学校生活など様々な場面で、タブレット端末等のICT機器を活用しています。 また、情報モラルの育成については、各学校で活用ルールを作成・指導する等、家庭にも協力を仰ぎながら、児童生徒が情報モラルや情報セキュリティについて体系的に学ぶ機会をつくり、情報を正しく安全に利用する意識の向上を図っています。

No.	意見（原文）	市の考え方
9	私は、昭和36年3月に小牧市三ツ渚小学校を卒業し、当時の児童数は、177名と記憶しています。現在でも、三ツ渚小学校には、愛着があり、「下校ボランティア」をさせていただいております。 今回、「小牧市新たな学校づくり推進計画」の中で、三ツ渚小学校が、村中小学校に統廃合されるとの計画（案）があることを知り、私の見解を提案いたします。 三ツ渚小学校は、以前に全面改装の計画があり、南小学校の次と記憶しております。現在では、南小学校の全面改装は終了しています。次は、三ツ渚小学校と違いますか？このことが、今回の統廃合に関係していますか。 若し、統廃合になれば、体力に問題のある児童（低学年）が村中小学校まで通学することは、健康面、安全な通学路の確保等で問題が多く発生すると思慮します。 提案ですが、三ツ渚小学校の校舎は、老朽化していますが、そのまま一部改装して使用する。 児童数の減少については、村中小学校の児童数は、把握しておりませんが、西ノ島地区（現在も一部は、三ツ渚小学校に通学しています。） 今回、村中小学校の児童の中で、西ノ島地区、村中の南地区の児童で、村中小学校に通学するより、三ツ渚小学校に通学の方が時間的に短くなることはないでしょうか。 以上よろしくお願いいたします。	■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。 ■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■三ツ渚小学校の建替えについて P11及びP12下段に記載のとおり、三ツ渚小学校においては、築年数60年以上が経過しており、小牧市公共施設適正配置計画においては、第2期（令和9年～令和18年）に建替えを検討する学校に位置付けられていますが、その計画は、「小牧市新たな学校づくり推進計画」において、学校施設の適正規模・適正配置や子どもたちにとってより望ましい教育環境の基本的な考え方を整理する中で、必要に応じて見直しを行うこととしています。 また、P29に記載のとおり、既存の学校を全て、目標耐用年数である80年以内に建替えるとした場合、今後、2年に1校ずつ建替えを行わなければならない、財政的にも困難であるため、児童生徒数の状況や教育環境を見据えて、学校再編を検討していく必要があると考えています。
10	令和5年度時点で1学級になっている学校を最優先で再編を進めて頂きたい。数年先の話ではなく来年度からどうやって学習環境の確保を行うかを議論して頂けると保護者として安心します。	■早急に取り組む必要のある学校 「No. 6」の回答のとおりです。

No.	意見（原文）	市の考え方
11	令和15年度学級数減少し小規模化が進みと書かれているが、三ツ渚小学校は明治7年開校150周年を迎えているが、過去においても私が在籍中でも殆どが6学年全て1学級であり、その後三ツ渚原団地、スペクトル舟津などができ一時的に若い世帯の人口が増加した時のみ2学級、3学級の時があり150年の歴史の中で殆どが1、2学級であり令和15年度云々ではなく常にその状態の地域であると思います。 昭和40年代トラックターミナル、三友工業、三星ベルトなど企業誘致がされ準工業地域として都市計画が色分けされ、応時、中央、小牧原、味岡方面のような人が住むための地域作りがされていない地域ではないかと思います。 ただ今後の時代の流れの中で上記の地域であっても本当に住みやすい地域として認知され第2世代、第3世代が住み続けていかなければ桃花台ニュータウンのように子供の減少が進むと思われる。 学校の統廃合も必要かもしれませんが、小牧の地域にあった現状をもっと良く理解し、舟津、三ツ渚地域を判断するべきだと思います。人が住みやすい環境作りをしないで、減少するから統廃合をするはあまりにも一方的な考え方だと思います。長い歴史の中前段で述べたように昔から小規模学級であった地域を人口増加対策もせず廃校は必要ではないと思います。 仮に統廃合がされた場合、通学距離4km範囲内とは大人でも1時間位かかる距離、まして新入学時など考えられない位の時間ではないか、少数であれば、通学団など地域によっては一人二人での通学になることなど課題はより沢山あります。十分な検討がなされより良き方向へ進む事を願います。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。 ■通学（適正配置）について 「No.1」の回答のとおりです。 ■人口増加対策と学校再編について 「No.8」の回答のとおりです。
12	広報7月号の学校再編のイメージで、巾下地区の小学校が2校→1校となっていますが、巾下地区の小学校は三ツ渚小学校、と村中小学校が該当しますが、どちらの小学校も伝統があり、地域の中心となっています。再編には賛成できません。 三ツ渚小学校は過去には1学年1クラス（30人程度）でしたので、いまさら児童数だけで統合するのは反対です。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。
13	学校規模の適正化を目指して全国各地域で統廃合が行われています。統廃合で学校がなくなる地域の影響や環境変化による児童生徒への影響も考えられます。 学校には生徒の学びの場としてはもちろん、避難場所、遊び場、地域の行事など地域住民の交流の場所も担っています。 地域に学校がなくなれば、ますます地域に新住民が転居して来る事もなく、地域の過疎化高齢化だけが進み、子供達の地域の愛着も薄れて地域衰退が進む懸念も考えられると思います。地域に学校は必要ではないでしょうか！	■地域の拠点としての学校 P55中段に記載のとおり、学校は地域スポーツや防災など地域の重要な拠点となっていることから、学校再編に伴って学校として用途が不要となったとしても、地域スポーツなど地域住民の交流の場や災害時の避難所としての機能の維持については検討していく必要があると考えています。 ただし、それらの機能の維持と教育施設として学校を残していくことは、分けて考えなければならないと考えています。

No.	意見（原文）	市の考え方
14	現在6歳(年長)と3歳の子供がいます。2018年に現在の家を購入しました。お腹に子供がいたので小学校、中学校の距離も勿論考えて決めました。それなのに早急に学校編成が必要な地区と言われて困惑しています。小中学校が今より遠いなら絶対に現在の場所は選んでいないからです。 その為編成の理想は学校編成の周知をきちんとした上で、それから産まれてくる年代の子たちから統合にしてほしいです。それが厳しい様でしたら、せめて下記の件をご検討お願いします。 ○三ツ渕小学校と小牧西中どちらも統合で無くなる地区に住んでいます。そのため小学校在学中に小学校統合、中学校在学中に中学統合と2回統合を経験するのでは？と危惧しています。1回は仕方がない面もあるかと思いますが、2回も統合を経験させるのは子どもたちにとって負担だと思います。やるなら小学校と中学校同じ年に一気に統合、又は6年以上期間空けてから統合にして、どの子も2回在学中の統合を経験させる事のない様にお願いしたいです。 ○中学3年で統合は受験に影響が出る可能性があります。どうか中学3年生だけは前の学校のままの環境でいさせてあげてほしいです。 ○小牧西中学校が無くなった場合、我が家から次に近いのは小牧中ですが、おそらく人数の都合で北里中の校区になるのでは？と予想しています。家からgoogleMAPで見た北里中の最短距離は徒歩56分5.1キロでした。通学基準の1時間以内6キロ以内にはギリギリ該当しますが、重い荷物を持ってその距離は果たして本当に適正な距離と言えるのか疑問です。私達大人でも自分が毎日それをやる思うと厳しいと感じないでしょうか？夏や雪の日は特にです。子どもが大きくなったら仕事もフルタイムにしたいので毎日送り迎えは出来ません。基準に満たしてなくてもスクールバスの導入、自転車通学の許可をご検討お願いします。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。 ■通学（適正配置）について 「No.1」の回答のとおりです。 ■学校再編に伴う子どもたちの環境の変化について P55上段に記載のとおり、学校再編に伴って様々な課題が出てくることが考えられます。教員や保護者・地域と連携してきめ細かに対応していく必要があると考えています。
15	少子化から老朽校舎の他校との併合が余儀なくなっている現状ですが開校100年の村中小は廃校の対象に成りますか？	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。
16	桃花台の学校統合に賛成ですが、実際統合されるとなると数年後になるであろうと予想しています。なので先に大城小の中学校学区の見直しを検討していただきたいと思います。 我が子が通う大城小はすでに1クラスになってしまっています。大城小は私が子供の頃と同じように中学校で光中と桃陵中の2つに分かれますが、近年は光中の方が生徒数が少ないにも関わらず、昔からの学区に従い大城の子は少人数が桃陵中に通う事になります。桃陵中は他に桃小と陶小の全員がそのまま上がるのでその中に少人数で入ることを親も子も不安だという声も多数あり、特に桃小、陶小はいじめの件数も多くあるようで来年度は特に少ない人数でその環境でやっていけるか不安を感じています。なんとか光中に行けないかと思っている保護者も多いです。 桃花台の中で大城小だけが分散されてしまい、私が子供だった頃ならば何十人～百人単位で別れる事ができたかもしれませんが、今は桃陵学区が10～20人程度で可哀想です。 いじめの件数が多いのも逃げ場がないという少人数の環境の影響もあるのではないのでしょうか。いじめや嫌がらせから回避する為には学校に行かないという事と、学校を変える（引っ越しや私立受験など）という選択肢しかない状態になってしまうような気がします。 統合には時間がかかるのも承知の上ですが、せめて大城の子は光中か桃陵中か、自分で通う中学を選べるようにするなど、学区の事だけでも早急に検討していただけたらと思います。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。 ■学校の選択制の導入について 学校と地域社会との結びつきが重要であり、現時点で導入については検討しておりません。

No.	意見（原文）	市の考え方
17	小牧市内で人口の偏りがあるため、学校の再編が急務なのは理解できますが単の再編では現在、早急な対応が不要な地区でも将来的に再編が必要になります。その為、学校再編以外の取り組みが必要です。例えば、再編対象地区での人口増加の取り組みです。 現在、著しく子供(小学生、中学生)が増えてるのは2012年前後に小牧市で急激に住宅地が増えた地区です。2012年前後に小牧市に転入し、家庭を築き、子供が増えた地区です。具体的には小牧、小牧南、味岡地区です。小牧、小牧南地区では名古屋方面への利便が良く、幹線道の整備(県道や間内駅周辺)が主な要因だと考えられます。同様に味岡地区でも田県神社駅や味岡駅周辺の整備が行われました。上記、地区に隣接する篠岡、北里地区はそれぞれ周辺地区(春日井、岩倉、北名古屋)への利便は良いのに人口が増えてないです。 子育て世代が再編対象地区に居住することにより恒久的な児童人数の安定が見込めます。「再編」という言葉で現在の再編対象地区からの転出を考えている家庭もあるかもしれないです。再編対象地区への子育て世代の増加に向けた取り組みが必要です。例えば、再編対象地区の子育て世代への就学援助金の要件緩和や増額、市民税の減額などです。これにより再編対象地区への子育て世代が増えれば現在の偏った、小牧市内の人口分布の解消が見込めます。 又、「1学年1クラス」のデメリット(多様化へ順応できない、クラス替えができないなど)により、「再編」の説明がありましたが「1学年複数クラス」が必ず良いとは限りません。その一つに「不登校」の問題があります。教育委員会では「クラス替えすれば不登校をしないで済む子供が増える」と説明していましたがそれにはまだ説明が不足しています。個人情報があるため、具体的な学校名は伏せ、「1学年1クラス」と「1学年複数クラス」での不登校人数の比率を説明がない為、説得力に欠けます。仮に現在の構想のまま、「再編」し小牧市内での不登校者人数が増えたら目も当てられません。その為、「人数」以外の実数値の開示が必要です。 同時に、現在「1学年複数クラス」に通う家庭が「1学年1クラス」へ転校を望んでいたりと、逆に「1学年1クラス」に通う家庭が「1学年複数クラス」への転校を望んでいる場合があります。その為、各家庭、各学校共に考え方、風土、環境が違います。今後は再編対象学校へ転校を考える家庭も出てくるかもしれないです。その為、「再編」を考える前に「越境通学」という選択肢を設けるのも一つの方法だと思います。 仮に「1学年複数クラス」で不登校になった場合、クラス替えで不登校が解消されるとは限りません。「1学年1クラス」の学校へ転校し、不登校が解消されるかもしれません。その為、小牧市内の学校を一律で「再編」するのではなく、「1学年1クラス」の学校と「1学年複数クラス」の学校に再編し、それぞれの家庭がそれぞれに合わせた教育選択ができる構想作りが今の日本社会に必要であり、その先駆けが今回の小牧市の再編構造になることを期待します。 この意見への返信がないのは承知ですが、子育て世代でありながら社会人学生(今期卒業)です。学校では一部教育について学びました。教育委員会として私の意見をどう感じたか教えていただけたら今後の「教育」「市政」について多角的に見えるので返信がいただけると幸いです。	■人口増加対策と学校再編について 「No.8」の回答のとおりです。 ■不登校対策について 不登校の要因は、複合的な問題が絡み合っていることが多く、学校の規模だけで解決できる問題ではないことから、不登校対策を理由として、適正規模を大きく下回っているにも関わらず、複数の学校を配置することはできないと考えています。

No.	意見（原文）	市の考え方
18	～小中学校の将来像　～特に東部地区について より良い東部地区の充実に資する計画となることを願って。 東部地区には、小学校5校、中学校3校ありますが、少子化や教育環境の変化などに伴い、見直しは不可避であるとの認識は持ちますが、小学校中学校の数は、現状維持（変更なし）と、完全統廃合の二者択一ではなく、現状の持つ資源を活かし、さらなる充実を描くことを目指すこと、と考えます。 （小中学校の数を数校とする可能性を探ることはなされたのかどうか） 即ち、施設の位置関係、児童生徒の推移、施設の状況などとともに、主体は、児童生徒であり、成長や学びのより良い環境や制度を目指す、と考えます。 まず、確認したいのは、1クラスの児童生徒の数は文部科学省の人数に従うのか、ということです。 個人的には、1クラス20人程度が、良いのではと考えますが、小牧市としてはどう考えるのか。クラスの数、統廃合の前提に反映しているのか。国や県との相違があれば、市独自に差を補い、教育環境を充実する、この考え・覚悟が市にはあるのか。この1クラスの児童生徒の数の位置付けを、どの様に検討され結論づけているのか。 ～児童生徒の減少によりクラス数の減少、これへの対応としての小中学校の統廃合か？ 次に、他市町村の先行事例に学ぶことは、どの程度されているのか、ということです。全国的に少子化、高齢化、人口減少が進んでいる中、人口、地勢、産業などに留意・配慮して、より良い教育環境を実現している先行事例に学ぶことは、とても有効であると考えます。 さらに、欧米での制度や実状を参考にして、理想を目指す契機としたく思います。 ～教育の制度や施設など様々な専門家がおられ、協力を仰ぐことは不可欠だと思います。これは行われ、生かされているのでしょうか。 さらには、かつての制度（歴史）に、どの様に学んでいるか、ということです。 ～かつて、小牧市東部（篠岡地区）は、篠岡小学校1校、篠岡中学校1校でしたが、分校制度（小学校1、2年生は身近な分校に通い、3年生より本校に通う）があり、幼稚園や保育園から直で、遠い本校に通うのではなく、低学年は、近くの分校に通う。（分校廃止後は、遠隔地からはバス通学、あるいは自転車通学？となったのですが）そして、小学生生活に慣れて、体力も向上した段階から、本校に通う。 ～これは、今考えても、とても良い制度だと思います。 また、学校施設の寿命について、各校には大きな差がありますが、大切にメンテナンスを継続的に行って来ていれば、使い込まれた魅力的な学校が多くある、という状況を持つことができていたはず、と考えます。継続した予算を、教職員・人材に、教室など施設のメンテナンスに注いでいれば・・・。 この計画を策定するに良い機会ですので、特に、「人やモノ」へのしっかりした予算を、割り当てることを、明記しているでしょうか。	■学校再編のイメージについて 「No.1」の回答のとおりです。 ■1学級あたりの児童生徒数について P23下段に記載のとおり、本市の1学級あたりの上限人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2・3年生は40人です。現時点で、市独自に上限人数を設定することは考えておりません。 ■他市町村の先行事例について これまでも既に学校再編に取り組んでいる自治体の行政視察を複数行うなど、先行事例を参考にさせていただいておりますが、引き続き、他市町村の状況等を注視し研究に努めてまいります。 ■学校施設の維持管理について P53下段に「③学校施設の老朽化への対応の在り方」を記載しています。 なお、一般的な学校の耐用年数は60年ですが、本市においては、適正な維持管理により長寿命化を図ることで、耐用年数を80年とすることとしています。ただし、そうした中においてもP29に記載のとおり、既存の学校を全て、目標耐用年数である80年以内に建替えるとした場合、今後、2年に1校ずつ建替えを行わなければならない、財政的にも困難であるため、児童生徒数の状況や教育環境を見据えて、学校再編を検討していく必要があると考えています。

No.	意見（原文）	市の考え方
18	[No. 18の続き] 次に、統廃合後の施設（敷地や建物）の在り方についてです。提案したいのですが、前提として、敷地や施設は、市民の財産として残し、活用する。そして、国や県の方針に従順に従うのではなく、市独自のあり方を模索する、です。（国や県の理解を得る努力を図り、実現を目指すことは、当然です。その上でのこととして） その上で、以下の提案をします。 1．現在の小学校の機能・役割を残す。 1）分校と位置づけ、低学年（１～３年生、あるいは１、２年生）は分校に通い、高学年（４～６年生、あるいは３～６年生）は本校（統廃合後の小学校）に通う。 2）通学の利便性、安全性への配慮は十分に図る。 3）放課後児童クラブは、学校施設内に確保する。 4）地域防災の拠点としての位置付けは継続する。 2．現在の小学校の敷地や施設を活用する。 1）地域の様々な活動の場として活用する。 例えば、地域協議会の拠点（事務局の設置、会議の場など） スポーツ団体（スポーツ振興会など）の拠点（同上） 市民活動団体（生活、自然、環境、福祉など様々な）の拠点（同上） 2）一部を宿泊施設に活用する。 例えば、スポーツの合宿所として活用する。 短期滞在の民宿的な活用。（家族の利用、旅行者の利用） 戸建住宅のリフォームや建て替え時の引越しへの対応としても。 3）地域の文化施設として活用する。 例えば、図書室、地域の郷土資料館、美術室、音楽室、工作室などとして。 4）防災の拠点としての位置付けを継続する。重ねて確認したい。 特に、備蓄。そして、避難所。調理、保健、上下水道の場などなど。 3．現在の中学校の敷地や施設を活用する。 1）小学校の場合と同様な活用。 2）市民のリスクリング（スキル、技術やノウハウの学び）の場として活用する。 3）市民のリフレッシュ（病んだ心を癒し、再生する）場として活用する。 4）福祉施設として活用する。～乳幼児から高齢者まで、健常者も障害者も。 5）東部地区全体をカバーする拠点として。 例えば、地域ツーリズムの出発、到着。 ～市民四季の森、ふれあいの森、稚児の森、ホテルの里、 太良マメナシの里、リサイクル拠点、名古屋コーチン発祥の地、 愛知文教大学、尾張広域緑道、ポリテクセンター、ワインの里、 果樹園（モモ、ブドウ）、史跡の数々。 また、様々な市民団体、NP0の活動拠点や連携の場として。 以上、「小牧市新たな学校づくり推進計画」（案）に対しての受け止めや考え、提案です。 読み込み不足や、誤認識、情報不足から、的外れの部分もあるかもしれませんが、 誤りや不備にはご容赦ください。よろしくお願いします。	■学校跡地や校舎等の利活用について 学校再編後の施設（敷地や建物）のあり方については、今後、学校の再編の具体的な検討を進めていくのと並行して、教育委員会のみならず市全体で検討していく必要があると考えています。

No.	意見（原文）	市の考え方
19	いつもお仕事お疲れ様です。6歳と3歳の2人の子を持つ父親です。妻も送っていると思うので恐縮ですが、内容が重複すると思います。誤字脱字等もあると思いますがご了承下さい。 1. 三ツ渚小から別の小学校へ変更になった場合、昨今の地球環境の変化や、事件・事故のリスク低減等を含めて考えた結果スクールバスをお願いしたいです。その場合の利用者の金銭負担は致し方ないと考えています。 2. 中学校の統合ですが、3年生での統合は受験にも影響を与えると思うので、3年生の統合は避けていただければ幸いです。 3. 小学校・中学校共に、いきなり統合ではなく、両校顔合わせやクラブ活動等を通じての交流を経て、じっくりと行うのはいかがでしょうか？子供達の負担軽減や先生方に子供達の事を知ってもらう機会は大事だと思います。 4. 統合後の子供達の肉体的・精神的な負担は個人差があると考えます。その為カウンセラー等も統合先の学校に常駐等は可能でしょうか？家庭以外での相談場所も必要だと思います。 5. 過疎地域の学校統合は中心部に人が集中してしまい、余計に過疎化が進んでしまわないか心配です。転入者は中心部に集中してしまい、その他の地域には集まらないのではないかと。	■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■学校再編に伴う子どもたちの環境の変化について 「No. 14」の回答のとおりです。 なお、学校再編を行う場合に、中学3年生を除外することは難しいと思いますが、受験への影響などには細心の注意を払う必要があると考えています。 また、学校カウンセラーについては、現在も配置していますので、対応は可能です。 ■学校間交流について 「No. 6」の回答のとおりです。 ■過疎化の進行について 学校の小規模化により多くの課題が指摘されており、その課題解消のため、学校再編は必要なことと考えております。子育て世代にとっては、近くに学校があることは大きな利点であることから、学校再編が地域に与える影響は大きいものと考えています。そのため、新たな学校と地域のつながりを再構築するなど、地域全体に活力をもたらすよう、まちづくりを検討していく必要があると考えています。
20	新しく学校を建設する場合に、災害に強い浄化槽の設置をご検討いただきたいです。 小牧市においては、下水道が広く普及しており、市民サービス及び公衆衛生として大変喜ばしいことであります。しかしながら、東日本大震災や能登半島沖地震等の災害において、下水道の普及によるトイレが使用できない問題が取り沙汰されております。トイレが使用できないことにより、水分摂取を控え、健康被害の原因となった事例も多数あり、大変不安に思います。 下水道供用区域であっても、避難所となる施設においては、災害に強い浄化槽の設置を進めている自治体もあると聞いております。 自然災害に不安が募る今日、是非ご検討くださいますようお願い申し上げます。	■災害対策について 学校施設は、防災など地域にとって重要な拠点であると考えています。学校施設の耐震性の確保をはじめとしてマンホールトイレの設置など防災拠点、避難所の機能を確保できるよう検討してまいります。
21	イメージとして示されたとされる桃花台地域の小学校を1校中学校を1校にする案はあまりにも乱暴すぎる。小規模校のデメリットばかりを並べ立てて進めようとする狙いが見え見え。メリットもきちんと出して保護者、地域の意見をしっかり聴いて慎重に進めるべきです。	■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。
22	明治7年に創立された歴史ある三ツ渚小学校を廃校にしないでください。1学年1クラスで何が問題なのでしょうか？私は昭和33年生まれで丁度学年1クラス最後の卒業生です。1クラスだからこそクラスの殆ど全員と関わり合い、絆を深めることができたと思います。多くの友達と知り合い切磋琢磨していくのは塾・習い事・中学・高校・社会人になってからでも遅くありません。教育面での課題に「クラス替えができない」と挙げてありますが、複数のクラスがないと成長が困難なのでしょうか？クラス同士を競わせないと教育活動が困難というのは理解できません。机上で数値を分析するだけでなく地域住民の声を聴く場を設けていただいて吸い上げる事が重要だと考えます。	■学校規模の小規模化について 「No. 2」の回答のとおりです。

No.	意見（原文）	市の考え方
23	1981年度～2014年度にわたり33年、小牧市内の小学校に、主に学級担任として勤務し定年を迎え、その5年間再任用ハーフとして外国人指導担当として小牧小学校で勤務してきました。 この度、小牧市が策定された「小牧市新たな学校づくり推進計画(案)」に係る意見募集がありましたので、僭越ではありますが、子どもたちの健やかな成長を願う立場から若干の意見を述べさせていただきたく思います。 小牧市は、市内小中学校の児童生徒数の大幅減少に伴う学級数減と校舎の老朽化による多額の建て替え費用を鑑みて、学級規模の適正化を図るためとして、学校の統廃合を大胆に提起しています。しかし、統廃合には、いくつかの懸念される点があると思います。 ① すべての学年が1学級になるから統廃合？ 陶小学校は、私の知る限り、ほとんどの時期、市内で一番学級数が少ない学校であったかと思います。ですが、地域の学校として住民の皆さんに支えられ、研究熱心な先生方のご指導の下、豊かな教育実践がなされてきたと思います。小規模校は、適正規模校より劣るとも受け取られる主張は訂正されるべきです。 ② 統廃合による通学範囲の広域化による子どもたちの負担増大 特に小学1年生の子が重いランドセルを背負い、4kmもの道を通うのは大変です。 ③ 学校が地域コミュニティと連携を図りながら培ってきた地域に根づいた文化の継承を危うくする危険性 地域の特殊性を活かした文化がそれぞれの学校には根付いていると思います。統廃合により貴重な文化が継承されなくなることを危惧します。 ④ 若者定住対策に逆行する統廃合 廃校になってしまった学校の周りには若者は集まってきません。若者が住みたくなる地域の中心には学校が存在すべきです。 以上、学校統廃合に伴って危惧される点をいくつか述べていただきました。いずれにしても、統廃合は経済効率の点からだけではなく、子どもの成長を保障する学校づくりの観点も踏まえて、地域住民の皆さん・当該学校の教職員や子どもたちの声を十分に聞いて、慎重に討議を重ねていかれることを切望いたします。	■学校規模の小規模化について 「No. 2」の回答のとおりです。 また、学校規模が学校の優劣であるとは考えておりませんので、ご理解をお願いいたします。（計画案の修正なし） ■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■地域の拠点としての学校 「No. 13」の回答のとおりです。 ■人口増加対策と学校再編について 「No. 8」の回答のとおりです。
24	児童数が少なければより丁寧な学習ができると思います。人は人でしか育たないと思います。少ない利点を生かす教育を望みます。子どもや保護者の意見をよく聞いてほしいと思います。くれぐれも効率化を優先しないように。	■学校規模の小規模化について 「No. 2」の回答のとおりです。
25	人口減少の進行を防ぐ施策が必要です。若い人達に魅力ある子育て、教育施策が必要です。一例として保育料無償化や学校給食無償化、安心して利用できる多様な保育、行き届いた保育、保育内容の充実などがあげられます。 今回、適正規模に満たない学校を統廃合する計画ですが、住民や子ども達の側から見れば、利用しにくい学校になります。ある程度の統廃合はやむを得ないとしても適正規模を12学級以上24学級以下として切り分けていくやり方は乱暴だと思います。特に篠岡地区の小中各1校は無理があります。桃花台団地は今でも高齢化が、集中しています。この計画に従えば、ますます老人の街、ゴーストタウンになるでしょう。学校統廃合を一面的にみるのではなく、まちづくりの観点から総合的に検討する必要があります。 小規模校のメリットは行き届いた教育、児童生徒の濃密な人間関係の形成があげられます。大規模校に比べ不登校児の発生率は少ないのではないのでしょうか。以上、新しい学校づくりの計画作成においては、総合的に弾力的に議論していただきたい。住民の声をしっかり聞いて進めていただきたい。以上	■人口増加対策と学校再編について 「No. 8」の回答のとおりです。 ■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。
26	小牧市の学校づくり推進計画の小中学校統廃合計画案ついて危惧を感じています。地元の保護者や住民の意見を丁寧に聞き時間をかけて計画を決定してほしいです。 ①子どもの少子化は確かに現実問題ですが、統廃合することで、通学困難な児童が増えます。今でも低学年の子どもたち（特に新一年生）は学校に行くだけで体力を消耗し学習への悪影響がでるのではないかと心配です。通学支援の問題が解決しないうちに統廃合をすることはとても不安です。 ②これまでも、少人数学級を求める声がありました。発達問題、貧困、虐待など子どもをとりまく社会問題は大きく変化し、学校現場においても一人ひとりへの細やかな対応が求められます。学校現場からは、教員の仕事の多忙さで子どもと十分向き合えないという悩みが出されています。少人数学級だからこそ、個々の児童への細やかな目配りや指導援助ができると思います。児童数減少問題を学校統廃合という形で解決するのではなく、小牧市独自で少人数学級を実現する方向転換の機会にするべきではないのでしょうか。	■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■1学級あたりの児童生徒数について 「No. 18」の回答のとおりです。

No.	意見（原文）	市の考え方
27	子どもの増加に対応するため学校の増設を行った歴史があるので、逆もまた起こるものだと認識しています。ただ、広げた風呂敷を畳むのは、拡充する時よりも周囲の理解を得るのが大変だと思います。 実際に我が子に置き換えると、通学に片道3キロ、通う学校が変われば片道4キロを超えるという状況です。歩きで片道1時間以上になると、7時前に家を出ないと間に合わないのでは…、低学年がたどり着けるのかという不安があり、バス通学となった場合も小牧のシティバスや一般企業のバスで、学校までの路線や授業に間に合う時刻表の編成ができるのだろうかとも考えます。 通学時間も解消しつつ小学校数の集約を図るのであれば、分校制（例：光ヶ丘小学校や桃ヶ丘小学校を篠岡小学校の分校とする）のも一つかと思います。分校になることで、分校も含めて先生の所属校が集約されるため、マンパワーが不足する際に先生の行き来（越境応援）ができると考えます（デメリットとしては分散した学校単位で学年順位をつける際にどうするかや、運動会や修学旅行などのイベントを親校、分校合わせて行うかなど課題山積ですが…） 人口構成や出生数に応じた施策の変更に異を唱えるわけではありませんが、統合がなされた後の方針が明確だと、地域や保護者の理解も得られやすいのかと思います。 例：学校統合や小中一貫校にした時に、元学校があった土地はどのように活用されるのか（引き続き学校生活に有用な使われ方がされるのか、または売りに出されるのか）。児童クラブのあり方（現在少人数の学校では空き教室を利用しており、希望があれば六年生まで利用できるという体制が取れるのか、取れなくなるのか）はどうなるのか。 空き教室に関しては、災害時に体育館が避難所となった際に、妊婦や乳幼児、発達障がいをかかえる人など、要配慮者の避難場所（または感染症罹患者の隔離避難場所）として稼働するような話も避難訓練の際にお聞きしたように記憶しています。この辺りの運用も含めて、学校のあり方をご検討いただけるとありがたいです。 『学校のあり方』というと現在進行形、またはこれから学校にお世話になる人たちだけの話のようになってしましますが、小牧市の持つ課題と進むべき未来との認識で様々な世代が自分事として捉えてもらえると良いように思います。	■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。 ■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。 ■学校跡地や校舎等の利活用について 「No. 18」の回答のとおりです。
28	学校統廃合についてのパブリックコメントです。子どもが減るからと言って学校を減らす計画には納得できません。タウンミーティングで市長、教育長の発言にびっくりしたのは私だけではないと思います。東部地域は小学校5校中学校3校が各1校になるとの事。通学の距離、地域の環境など、子どもの目線で考えられているのでしょうか？ 地域に子どもの声が聞こえない・・・本当に淋しい事です。市民の声をよく聞いて下さい。よろしくお願いします。	■学校再編のイメージについて 「No. 1」の回答のとおりです。 ■通学（適正配置）について 「No. 1」の回答のとおりです。